

## 令和2年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：令和2年8月21日（月）13:30～15:35

場所：久慈地区合同庁舎 6階大会議室

### 1 開会

#### 【佐々木副局長】

それでは、定刻となりましたので、ただ今から令和2年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。

私は、本日の進行を務めます振興局副局長兼経営企画部長の佐々木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、県北広域振興局、高橋局長から御挨拶を申し上げます。

### 2 挨拶

#### 【高橋局長】

県北広域振興局長の高橋でございます。地域運営委員会議の開催に当たりまして、一言挨拶をさせていただきます。地域運営委員の皆様には、この度快く委員の方に御就任いただきまして大変ありがとうございます。また、本日は御多用のところ御出席をいただき、重ねて感謝申し上げます。

県では、盛岡、県南、沿岸、そしてこの県北の4つの広域振興圏ごとに、将来計画でありますとか取組実績でありますとか、地域振興に関する御意見を頂戴するための会議を開催しております。ここ県北広域振興圏におきましても、机上に配付してございますが、要綱に基づきまして委嘱させていただきました地域運営委員の皆様と年2回、久慈と二戸で開催させていただいているところございまして、本日は、委員改選後最初の会議、今年度1回目の会議という事であります。

県北管内におきましては、本年3月に三陸鉄道リアス線の全線運行が再開されましたほか、6月には二戸市が八幡平市とともに申請した「奥南部漆物語」が日本遺産に認定されたところでございます。三陸沿岸道路につきましては、一部ちょっと遅れがございまして、来年度中の全線開通が見込まれているところでございます。こうした動きを地域振興のチャンスとして、地域支援に磨きをかけながら、県北地域の魅力を情報発信していくなど地域の活性化につながる取組を進めていく必要があると考えているところでございます。

一方で、久慈管内にも残念ながら感染者が確認されましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で、全国的にもまだまだ広がっているところでございます。委員の皆様のご生活や活動にも様々な影響があるのではないかという風に拝察いたしますが、地域の住民の方のご生活、

経済活動などにも大きな影響が続いているところでございます。住民の命と健康を守ることを最優先にしつつ、国、県、市町村はもちろんですが、企業や地域、個人などあらゆる主体が連携して健康と社会経済への影響を最小限に抑えていく必要があると考えておりました、県でも様々な対策をとっているところでございます。

本日は、岩手県民計画の地域振興プランと、今年度の県北広域振興局の主な取組につきまして説明をさせていただいたのち、皆様から様々な御意見を頂戴できればと考えております。限られた時間ではございますけれども、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしく願いいたします。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

#### 【佐々木副局長】

ここで、本日御出席の委員、それから県の出席者について御紹介いたします。次第の2枚目、出席者名簿にて御紹介いたしますので、大変恐縮でございますが、お名前をお呼びいたしましたならば御起立いただきまして、その後御着席くださるようお願いいたします。

それでは、本日の出席者をご紹介します。

〈出席者紹介。(別紙座席表、内野澤委員から時計回り)〉

### 3 議事

#### 【佐々木副局長】

議事に入ります前に、ここで配付資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は次第、出席者名簿、それから座席表でございます。事前に郵送した資料につきましては、次第の下の箱囲みに記載しております、資料4種類となります。もし、お手元がない資料がございましたならば、事務局の方までお申し付けいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3、議事に入らせていただきます。県北広域振興圏地域運営委員設置要綱第4の規定により、運営委員会議は局長が主催することと定められておりますので、以降の議事進行につきましては高橋局長が行います。

#### 【高橋局長】

はい、それでは次第に従って議事進行をさせていただきたいと思いますが、本日の終了予定時間は、15時30分となっておりますので、進行には御協力お願いいたします。

それでは次第の3、議事がございますが、本日は、地域振興プラン県北振興圏及び令和2年度の取組についてという事とさせていただいております。まず、最初に事務局の方から地域振興プランと令和2年度の取組について説明させていただいた後、委員の皆様から順番に御

発言を頂ければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をいたします。

**【細越課長】**

事務局を務めます、企画推進課長の細越と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

お配りしている資料をもとに、だいたい 20 分程度、最初に私の方から資料を説明させていただきます。

すみませんが、着座にて説明させていただきます。

〈資料 1 及び資料 3 についての説明。〉

**【高橋局長】**

はい、ただいま説明した内容につきまして、皆様から御発言いただきたいと考えておりますが、その前に今の説明について何か質問があれば伺いたいと思っておりますけれども、何かございますか。よろしいですか。

では、これから意見交換という形で委員の皆様からそれぞれの立場からの御意見を頂戴できればと思っております。時間の制約もございますので、短い時間で大変恐縮ではございますが、お 1 人 3 分程度でご発言いただければと思っております。基本的には、それぞれの立場からの御意見を頂ければと思っておりますが、併せまして日頃の取組、新型コロナウイルスの影響でありますとか、その対応等についても教えていただければ幸いです。各委員から御発言いただいた後に、別途で時間を設ける予定でございますので、一旦 3 分程度でお話しいただいた後に、また別の時間を取りますので、足りない部分ですとか、その分についてはその際に御発言いただければと思っておりますので御協力お願いいたします。

では、大変恐縮ですが名簿順にお願いしたいと思っておりますので、まず内野澤委員からお願いしたいと思います。

**【内野澤委員】**

内野澤です。漁業者の目から見まして、実際に労働力が高齢化してきまして、なんとか若い人から就業してもらいたいと思ひまして、結構前から、担い手の育成とか新規就業者の募集をしたりして人材育成を行っておりますが、中々、その結果が見えてきません。これからも続けてなんとか 1 人でも 2 人でも新規就業者を増やしていくように頑張っていきたいと思ひます。

**【高橋局長】**

はい、ありがとうございます。人材育成、新規就業者の確保というお話がありましたけれ

ども、水産部長からなにかありませんか。

**【森山水産部長】**

先ほど御説明いたしました地域アクションプランの中で、漁業の担い手の確保、育成のテーマについては、大きな柱の一つと考えております。水産部においても、各漁協が定める地域再生営漁計画の実現に向けた支援ですとか、昨年度設置いたしました、岩手水産アカデミーも活用し、漁協が行う新しい就業者の方の育成、また、今後は地域の受け皿づくりについても関係団体と連携しながら取り組む考えでございます。

**【高橋局長】**

それでは、次に及川委員さんお願いいたします。

**【及川委員】**

はい、九戸精密の及川と申します。会社の概要の所から紹介も兼ねてお話をさせていただきます。九戸村に根ざした九戸インターを降りてすぐの所で約42年間になりますけれども、精密部品の加工と組立てをメインに経営しております。ほぼ40年ほど、精密関係の時計の業界でものづくりを中心に経営してきましたけれども、3年ほど前に、大きな変革で時計の事業から半導体の方にシフトして現在に至っております。

ものづくりの観点からお話しさせていただきますけれども、半導体で使用している部品ですけれどもCPU、パソコンだとかスマホだとかあらゆるものに入っている、CPUを検査するための、いわゆるテスターピン、プローブとも言いますが国内で製造している所は大変少ない中で事業を営んでいます。

コロナの影響ですが、いわゆるテレワーク、リモート会議などの需要がどんどん大きくなってきている面もあり、CPUの需要が増えて、昨年対比で3倍くらいの生産数になっています。

ただ、今後こういった形でコロナが影響してくるか、我々も心配の種ではありますけれども、こうした形で九戸村で精密部品の会社をやっております。県北のものづくり産業、私の考えでいいますと、九戸を含めて二戸、久慈地域は、実は繊細で真面目な人が多いのかなと、そういった風土なのかなと思っております。いわゆる時計関係で、海外でいうとスイスだとか、あとは岩手県、長野県といった地域は、昔から精密部品を作る生産拠点となっている。内向的な職人的な気質の人が多いのかなと、これは私の感想ですけれどもあります。逆に、口下手、私もそうですけれども海外に行く、出ていく方はうまく話せない、この部分に関しては、首都圏の我々の営業に任せながら、九戸の会社では、ものづくりに努めていくという形でずっと運営しております。そういった中で今の大きな課題としますとやはり少子化、

高齢化により、働く人口が減少していること、いわゆる就労者の不足が大きな課題となっております。

我々もさっき言った生産数が増えている中で、中々、求人を募集しても人が入ってこないという面もあります。また、伝統的な技術を受け継ぐ後継者が少ないという形で、ものづくりだけでなく農業、水産業を含めて、伝統技術の衰退が懸念されているのかなと思います。こうした中で我々の会社も県北地域の発展に何か出来ないかということで、いわゆる次世代の子どもたちにもものづくりの楽しさを教えていくことが必要なのかなと思っております、今、小学校、中学校、村内や二戸の中学校高校を含めて、インターンシップや体験学習を会社として受け入れております。

また、ものづくりの楽しさを伝えるために産業祭りとか、各団体のレクリエーション等で我々が先生となって、ものづくり体験などもやっております。少しでもそういった形で次世代の子供たちに県北の魅力を伝えていきたいと思っておりますので、今後とも役に立てればと思います。よろしく申し上げます。

#### 【高橋局長】

はい、ありがとうございます。何かコメントありますか。  
では、室長から。

#### 【酒井産業振興室長】

産業振興室長の酒井と申します。

御意見ありがとうございます。二戸センターと県北局の産業振興室で、それぞれ事業者様と連携させて頂いて様々な取組をさせていただいている所でございますが、まずは事業者間のネットワークに関しましては県北ものづくり産業ネットワークといったネットワークを構築させていただき、その中で、ものづくり改善塾といった形でそれぞれの事業者様にいらっしゃる若手技術者の方々を対象に、ものづくりに向けた勉強会を開催させていただいているところでございます。

また、人手不足の部分に関しましては、女性活躍の観点で、事業者の皆様に、事業主行動計画の策定を促して、女性の方の登用や採用を推進していただくとともに、キャリア教育の観点で、地元の高校生に加え、キャリア教育は若ければ若いほど良いという事で小学生、中学生も対象に、地元の中にどんな事業者があって、どんな仕事をしているのかを知っていただき、それによって、仮に進学等で県外に出てしまっても、また、地元に戻ってくる際の参考にできるような取組を行っています。息の長い取組と考えておりますので、引き続き地元企業の皆さんの御協力をお願いしたいと思います。

**【高橋局長】**

よろしいでしょうか。

それでは、次に勝田委員さんお願いします。

**【勝田委員】**

久慈地域エネルギーの勝田と申します。

久慈地域エネルギーは、小売電気事業を行っている会社です。

「アマリンでんき」の愛称でお客さまへ電気をお届けしています。

会社設立の主な目標は電気を安くする事、事業収益を地域循環させる事で地域を「元気」にする事、再エネの地産地消の推進という目的を掲げ、平成 29 年 10 月に会社を設立いたしました。

会社構成は、宮城建設、細谷地、ヤマイチ、中塚工務店、ジュークスの地元企業 5 社と久慈市の自治体新電力となります。

平成 30 年 6 月より久慈市の施設や出資会社を中心に電力の供給を開始、次に「アマリンでんき」を広く一般のご家庭でも使用していただくために出資会社で L P ガスの販売をしている細谷地を代理店としたガスと電気のセット販売や今年 4 月には岩手県企業局から滝発電所の電力供給を受け、久慈市の「アンバーホール」を始めとした再エネ電気の供給も開始しております。

コロナの影響は、幸いなことに事業への大きな影響までには至っておりませんが、大勢の人が集まる施設（養護施設や保育園など）への営業は、極力メールや電話を利用するように心掛ける事やご契約いただいているお客さまの電気料金支払い猶予、飲食店及び宿泊業のお客さまへの基本料金 3 ヶ月間無料などの対応も行っております。

地域を「元気」にする取組みについては、事業収益の一部を「子育て支援」や「コロナ感染症対策支援」に向けた寄付や S D G s セミナーの開催など、「アマリンでんき」を通じて地域を「元気」にしていく取組をしまいいりました。こうした取組は地域振興プラン県北圏の取組に通じるところが多々あると思いますので隣接する地域の皆さまと一緒に魅力ある「元気な街づくり」のお手伝いが出来ればと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

**【高橋局長】**

はい、ありがとうございます。

では、細越課長から。

**【細越企画推進課長】**

はい、勝田部長さんありがとうございます。

新聞等で売上から市に寄付されてるとかっていうのは拝見しておりまして、頑張っているなと思っておりました。先ほど、私の方から説明したんですけれども、現在振興局の再エネの取組では管内の市町村とのやり取りで横浜市との北岩手循環共生圏をどう回していくかという観点で取り組んでいるところなんですけれども、久慈地域エネルギーさんの目から見て、我々の取組に対してもうちちょっとこういったものがあればいいんじゃないかなというのがもしも、後であればですね、近いですからいろいろ意見を頂いて行政の施策に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### 【高橋局長】

それでは次に、川代一枝委員お願いいたします。

#### 【川代（一）委員】

こんにちは、川代といいます。保健推進委員の立場でこちらに参加しました。初めてなのでよろしくお願いいたします。

保健推進委員は、久慈市に各地域に市から任命いただきまして、約 120 人ほどで活動しております。市の保健師さんからサポートいただいて、主に地域の健康診断の推奨とか、あと健康相談、そのような活動をしております。

コロナの時代におきましては、集まってというのがとても難しい状況にあります。いま久慈市は、各地域の公民館を主体にして 100 歳体操を取り組んでまいりました。それがですね、密な状態ではなく、換気に注意しながら手指の消毒に注意しながら行っている状況なのですが、やはり見通しがどのようになるのか不安なところがたくさんあります。この地域の皆様の様子を見ていますと、65 歳以上、70 歳以上の方々が主に積極的に参加してくださっているんですね。そこで、会話、体操そのものもですけども会話することによって彼女たちのレベル、活動レベル、生活のクオリティが下がらないように感じます。改めて感じるのですが、人はやっぱり地域、特に働く世代においては職場だったり趣味のサークルとかが人間関係の主たるものですけども、退職されて 70 代以降になりますと地域の方とのつながりが大事なのではないかと感じております。それで改めて、地域を見直したときに 60 代、70 代以降の方だけではなく、もっと広く 40 代、50 代の方が将来参加しやすいような何かそういう取組を今一つこれから必要なのではないかなと感じております。さらに、日常の手指の消毒とかマスク、注意しているんですけども完璧とはいきません。ですから、その、安全なよりどころになるために隣の方、向かいの方の顔が見える関係、信頼とかそういったものがとても大事な時代になるのかなと感じております。私個人としては、もちろん元気の泉、保健センターもそうなんですけども入場とか退室の時のアルコール消毒はもちろんなんですけども、基本は手洗いだと思っておりますので、手洗いと日頃の健康管理、睡眠不足ではなくきちんと、

要するに食欲があるとかそういったことについて今後も気を付けていきたいと思います。

**【高橋局長】**

はい、ありがとうございます。

この件については、部長からでよろしいですか。

**【佐々木保健福祉環境部長】**

保健福祉環境部長の佐々木と申します。

御意見いただきまして、大変ありがとうございます。おっしゃっていただきました通り、地域での様々、高齢の方だけでなく世代の交流につきまして、保健推進委員の皆様の御活躍ですとか各市町村にいらっしゃる、例えば地域の民生委員さんですとか、地域に根差して活動している方に地域の活性化についてお願いしている部分が多くあって色々ご苦勞をお掛けしているところがあると感じております。

また、コロナウイルスについてもお話がありましたけども、おっしゃっていただきました通り、基本的な感染対策につきまして、いま色々な研究でもわかってきている事がありまして、マスクをしない状態で近くで話しをして、例えば食事をするとか大きい声で話をするといった所で感染するといったことが分かってきております。そして、手洗いであるとかそういった基本的な感染対策をしっかりやる事によって感染拡大を抑えられていくとだんだん分かってきていますので、そういった事にも気を付けながら地域の中で活動していただくことが大事かなと考えております。ありがとうございます。

**【高橋局長】**

よろしいでしょうか。

では次に、川代利幸委員からお願いします。

**【川代（利）委員】**

ミドリ久慈衣料の川代と申します。本日は、よろしく願いいたします。

弊社は、久慈市の大川目町で産業用ユニフォームを製造している会社になります。コロナの影響ですけれども、既存の産業用ユニフォーム等の需要はかなり減っております。その代わりに、医療用ガウンやマスクの製造を受注して、ガウンは、かなり多く受注できて、納期に間に合わせるために必死に製造している状況です。

アパレル産業はどこもこういった形で医療用ガウンやマスクの生産で忙しい状況です。ただ、10月までは、受注しているんですけれども、11月以降は、先が見えていないという所で、今後どういう風になるか推移を見守っている状況です。



アパレル産業については、広域局からの支援や御指導をいただきまして、本当にありがとうございます。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。色んな施策をしていただいております。今一番弊社で課題になっているのは、人材確保、多分どこの企業さんもそうだと思いますけれども、年配の方、50代60代が3割以上占めて、若い人材が少ない中で、いかに人材を確保していくかが今後の課題と思います。色んな施策等もしていただいております、この課題に、産官一緒になって取り組んで、なんとか人材確保を、これはどこの産業も同じだとは思いますが、人材確保に向けて協力していただきたいと思っております。

**【高橋局長】**

はい、ありがとうございます。  
それでは、酒井室長から。

**【酒井産業振興室長】**

川代社長御意見ありがとうございます。

川代社長様をはじめアパレル振興会の皆様方におかれましては、振興局、二戸センター共に、様々な所で御協力いただきまして、ありがとうございます。残念ながら今年は、コロナの影響で例年開催しておりました、アパレルのファッションショーですとか仕立て屋女子会につきましては中止を余儀なくされたところでございますけれども、こちらについては意見交換をさせていただきながら、来年度の開催に向けて調整させていただければなと思います。一方、これまでも首都圏で出展させていただいております、アパレル関係の見本市等につきましては、実際の商談や受注に結び付くといった成果も出ており、見本市の主催者が開催するという事でしたので、万全の態勢で、出展を進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

また、人材確保策に関しましては、現在、ミドリ久慈衣料様とカイゼンの取組をさせていただいているところでございますが、その中でも一般的にこの県北地域とそれ以外の地域を単純に比較したときに、賃金が安いという印象を受ける場合がありますが、地元を出た子どもたちが、自分の土地から離れて一人暮らしをすると当然、実家暮らしと比べると、余計な経費がかかるという事で、多少給料が下がったとしても暮らしというものに関していえば遜色のない暮らしが出来るのかなと思う部分もございますので、いわゆるキャリア教育だけではなく、U・Iターンとか、移住・定住の取組とも併せて、地域の魅力を発信する形で、地元定着やU・Iターンの取組を推進していければと考えております。

**【高橋局長】**

はい、よろしいでしょうか。

それでは次に、小松委員さんお願いします。

**【小松委員】**

株式会社小松製菓の小松と申します。私自身は、小松製菓の巖手屋という南部せんべいの通信販売と巖手屋が経営しています、自助工房四季の里の管理ですとか、系列の会社でタルトタタンという洋菓子の会社がありますが、そちらの商品開発とかECの担当をしております。会社の方は、タルトタタンと小松製菓両方生産をする会社ですのでテレワークで物は作れないという所で皆出勤しておりますが、営業などは出張とか、県内や近県だけに留め、電話でやり取りをするなどしております。

会社へのコロナの影響は、空港や駅、売店などでは著しく売上げが下がっており、逆にスーパーや通信販売の方は昨年よりも売上げが上がっているという事で全体的には、去年よりはコロナの影響で悪いですが、特に感じるのはEC事業が著しく伸びているというのは感じているところです。

私、今回観光の委員を仰せつかったのですが、弊社で二戸市のところに会社の下に南部せんべいの里というのがありまして、創業者の記念館ですとか、四季の里というそばや天ぷらを出しているお店だとか、チョコレート工場、工場が見える形の店舗を運営しておりますが、ゴールデンウィークは密集を避けるために全店、南部せんべいの里自体10日間お休みをいたしました。

現在どうかと言いますと四季の里の方は、通常の形に集客は戻ってきておりまして、2doorの方も8割ほどとなっております。観光に関して、たぶんこの計画を立てられた時は、コロナの前の計画ではないかなと思いますので、Withコロナを意識した、観光の計画を考えるべきではないかなという風に感じました。やはりWithコロナを意識しオンラインなどを活用しながら、あとコロナ明けのことを想定して準備を進めるっていうところが必要なのかなという風に思います。

昨年、花巻空港に台湾便が就航したことで四季の里にも台湾のお客様が10団体以上来ましたし、国内のお客様もその何倍かの団体様がいらっしゃいましたが、個人客は1人も来ませんし、この資料に外国人観光客の誘致を拡大するとありますが、今の状況では無理だと思いますのでWithコロナを意識した内容に一旦検討し直すべきかなと感じました。以上です。

**【高橋局長】**

はい、ありがとうございます。

**【酒井産業振興室長】**

御意見ありがとうございます。

仰られるとおり、With コロナの中で、特にも食品を、首都圏で販売したり、レストラン等に出荷されている事業者様におかれましては、これまではリアルでの販売が中心でこれをいかに伸ばすかということがポイントであったと思いますけれども、小松委員さんが仰るとおり、今後は、ECサイトの部分でいかに伸ばしていけるかという所が重要だと考えております。現在すでに取り組み合っている小松製菓様のようなところであればどんどん伸ばしていけるような取組をサポートしていきたいと思っておりますし、また県北地域では中々、そこまで至っていないという事業者様もいらっしゃいますので、既存のパッケージサービスの中で、それぞれの事業者様のタイプにあったような形で、最適な EC サイトの導入を促進していきたいと思っております。

また、観光の部分でございますが、我々の方でも上半期につきましては市町村をはじめ軒並み観光イベントが中止となっており、これまでのような、できるだけ目立って賑やかな事業を行って多くの方に来ていただくという方程式が通じない状況になってきております。その一方で、甲子園でも交流試合が開催されたという事で、スポーツの大会でも With コロナに沿った形で事業ができるという、一つのモデルケースが示されたと考えております。

観光部分におきましてもインバウンドを含めて、どうしても受け入れる地元の我々も、人が移動するとか人が来るということに関して非常に憶病になっている部分もございます。一つ一つこういう形であればできるんだという成功体験を積み重ねていく中で With コロナの中の観光に慣れるという形をひとつずつ積み上げることで、新しい形の観光を実践していく中で、事業者様と連携していければと考えております。

#### 【高橋局長】

今日説明した今年度の取組、あるいは地域振興プランというのはご指摘とおり、コロナの前の段階で作ってございましたので御指摘のとおりでございます。基本的にはそういった中で極力できることはやっていこうという事ではありますが、やっぱりできない事も色々あるので、その中で余った予算とかを新たな取組、緊急的にやるべき取組を含めてですね、やりながら来ておりました。下半期や来年度に向けてですね、これからの予算等の議論もありますので、そういった中で With コロナでありますとかっていったことをしっかり意識したものを取り組んでまいりたいと考えております。

ありがとうございました。

次に、野田委員をお願いします。

#### 【野田委員】

私は、洋野町大野地区で特別養護老人ホーム久慈平荘をやっております、野田大介と言います。

私たちの法人は、今度の10月に、無事に設立30周年を迎えることができまして、日頃より振興局の皆様には御指導等いただきまして、大変ありがとうございます。

うちの方も30周年ということで、30年経って、福祉の業界では、いわゆる老舗の方に入ってきたかなと思っておりますが、いわゆる介護保険の事業所として、これまでの10年と、これからの10年を考えると、今この2020年というのは、特に介護とか福祉の業界というのは分岐点かなと感じております。

今回御説明いただいた県北広域振興局の主な取組に、介護とか福祉の分野は思ったより少ないのですが、実際これを見ると、全部の分野、全部の事業が基本的には人が関わっているかなと思います。その事業全部の関わっている人に、もしかするとそこで仕事される方も、ご家庭に寝たきりのおじいちゃんおばあちゃんがいたら、私たちの出番が求められるという業界です。

そういう点では、私たちの業界は本当にこの地域、この国の、縁の下の力持ちではないかなと考えておまして、具体的に言うと、普通の時は、私たちの存在すら見えないのですが、急に介護とか、又は医療が必要になったという段階になると、私たちの福祉とか介護の業界の人たちが、その当事者の方たちから、こういう人たちがいたのかと急に目が来るという業界の特徴があります。

そういう点では、これまでの10年は、2010年から2020年まで本当に、最初のあたりは、先ほど川代さんも仰いましたが、今まで人が採れていたのですが、だんだん人材が確保できないというのが一番の課題です。その点は、同業他社、いわゆる参入が多いというのも一点あるのですが、もう一点は、高校生とか大学生、また専門学校生で、介護の方に進もうという方が少なくなっているという問題がございます。そういう点で、生徒さんが三者面談等で介護の方に行きたいんですと言うと、高校の先生が「いややめとけ」と言うそうなんですよね。なぜかという、給料も安い、仕事も大変だから行くな、なんて言うそうなんです。実際そういうことも断片的にはあるのですが、考え方によっては、今本当に業界的には処遇改善も国の方の支援をいただきまして、どんどん私たちの業界は処遇が良くなっております。

例えばですが、旦那さんが10年働いて、奥さんが5年くらい働いた家庭があるのですが、旦那さんが年収400万円で奥さんのほうが年収300万であれば、その夫婦でいうと700万の世帯収入があるというのが、介護の本当の現実です。世帯で700万だったら悪いことはないとは私は考えているのですが、そういう点では、かえって安いというのはもう昔のことではないかなと考えております。しかし一回ついたイメージが取れなくなっているという、私たちも積極的に、イメージ戦略を行っております。

私たちの法人でも、岩手県の働き方改革アワードで、一昨年、最優秀賞をとらせていただきました。どんどん働き方改革を進めております。あとは、必要などころには機械を入れたりして、そのようなところで取り組んでおります。

しかし、この2020年、ちょうど人材確保できないプラス、コロナというものが、やはり私たちの業界にも来ていまして、緊急事態宣言が出て、私たちの業界は仕事がありました。正直言うと、より一層忙しくなるかなと思っております。いつも以上に感染を持ち込まないということで、感染対策を行っておりまして、現場の方にちょっと負担感が増えているかなと思っております。

あとは、岩手県ではないのですが、北海道の方の老人保健施設でクラスターが出たところは、仕方がないのですが、元気な職員が、家族から、あなたのところはコロナが出たから行くなと言われてそうなんですね。元気な職員さんが出勤を家族に止められるという、介護とか医療とかは怖い業界という、ちょっと今、もう一つ悪いイメージが付きかけているかなと思っておりますので、ぜひその部分を御承知いただきながら、これからまた第2波第3波、今第2波が来ていると思います。より一層コロナ対策が必要かなと思っておりますので、御支援いただければと思っております。以上です。

#### 【佐々木保健福祉環境部長】

保健福祉環境部長の佐々木です。

今お話いただいた介護の関係につきまして、資料4、振興施策実施計画の中ですと14～15ページ「地域で支える高齢者支援」という項目の中で掲げさせていただいております。

介護予防、介護保険関係の取組につきましては、市町村が実施主体ということで、久慈地域ですと、久慈広域連合さんを中心に取り組んでいただいているところで、県としましては、その取組を支援しているという形で、計画の方に掲載しているところです。

また、人材確保の話で、魅力ある職場づくりが必要ということでございますが、久慈平荘さん、また、みちのく大寿会さんとしましても、例えば昨年度、当部の関係でいいますと、子育てにやさしい企業認証を取得していただくなど、魅力ある職場づくりに積極的に取り組んでいただいているところでありまして、大変感謝申し上げます。

また、介護の仕事のイメージというか、よく3Kと言われておりましたが、そういったことを払拭するといえますか、これから誰もが介護、皆で介護保険で支えているということになりますけれども、誰もが通る道ということで、そういったイメージ、魅力を高めていくということにつきましても、我々としても努力をしていくべきかなと、今お話を聞いて感じておりました。

コロナの関係につきましては、集団の中で生活をされている施設でありますので、十分に対策を採っていただいていると思いますが、感染防止対策の普及啓発などにつきましても、県としても引き続き取り組んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

**【高橋局長】**

それでは、野場委員、お願いいたします。

**【野場委員】**

漁協女性部の活動ですけれども、漁協女性部一同が集まる女性部大会をはじめ、各種イベントがコロナの影響で中止になっている状態です。地区でも、魚の漁獲量が極端に少なくなりまして、コロナと合わせて、食を扱うイベントがかなり難しい状況になっております。

活動がほとんどできない状態で、今は浜のごみ拾いや掃除、あとは三陸鉄道の駅の掃除をボランティアでやっている、そのくらい静かな活動ですけれども、持続してやっています。

**【森山水産部長】**

コロナの影響で、漁協の女性部大会は中止になりましたし、漁協研修会につきましても、令和3年1月に開催の予定ですけれども、なかなか先が見通せないという状況です。

今までですと、漁協女性部の方々が、地域の浜料理ですとか、産物のPR、イベント等への出店といった取組を積極的に行われてきている状況がありますので、それにつきましては県としても色々と支援をしているところですが、今年についてはやはりコロナの影響で、収束することを願っていきたくと思いますけれども、引き続き、浜の女性部の方々が活動できる場を提供しながら活性化につなげていきたく思っておりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

**【高橋局長】**

こういう状況ですので、イベントが中止になるというのはやむを得ない部分もあるとは思いますが、先ほどもお話があった通り、これまでの経験で、こういうふうによればこのようなことはできるのではないかと、といったようなことはあるのではないかと気がしていますし、これから積み重なっていくと思いますので、そういったことについて皆で情報共有しながら、やれることをやっていくということも必要なのかなと思っております。水産部だけではなく、産業振興室とか、保健福祉環境部とか、知見があつて相談できる場所もあろうかと思っておりますので、相談しながら、できることをやっていくという方向でお考えいただければと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは次に、藤織委員、お願いいたします。

**【藤織委員】**

合同会社プロダクション未知カンパニーの代表社員をやっております、藤織と申します。

私の会社は一人会社でして、主に久慈広域の観光PR全般の仕事をしています。私自身は

東京の出身でして、5年前から地域おこし協力隊を経てこちらに住んでおります。私からは、コロナの件と県民計画から、思ったことを2つお話させていただきたいと思います。

まず、このコロナ禍で、私も観光PRをやっているもので、大きな声で久慈市に来てくださいとは言えないような状況が続いております。大型のイベントの中止は結構早くに決まっていたんですけども、地元のお祭り等もどんどん中止になってきてしまっていて、久慈市でコロナが出たことも影響しているんですけども、地元のお祭り、それから集会とか、小さいことも何から何までなくなってしまっ。というのも、何人出たら中止するという基準が全くなくて、私は出店とかもしているんですけども、直前になって中止になりましたと言われて、結構事業者さんとかが仕入れをしてしまっているとか、経済を回すためになんとかイベントをしようというのが、逆に急に中止されて痛手を受けることが結構起きているように思います。

未曾有の事態で、分からないことがたくさんあるウイルスなので、仕方がないと思うんですけども、例えば県のほうで、何人出たらとか、この地域にどのくらい出たら何人規模のイベントは中止、公的なイベントは中止するとか、あとは地元のイベントでも自粛を推奨するとか、基準を決めていただければ、私たちもちょっとは動きやすいなと思うところではあるんですね。ニュース次第、クレーム次第でなんでも中止になってしまうと、なかなか働けない方が増えてくるのではないかなと思うところで、そこはちょっと検討して欲しいところであります。

それから、県民計画を拝見させていただいて、私の個人的な意見になるんですけども、若者や女性に魅力ある地域づくりというところに関して思ったことなんですけれども、SDGsの取組とかを見て、SNSなどで若者の関心とかを見ていると、例えば女性の生きづらさですとか、LGBTQなどを含めたマイノリティの生きづらさということに関心が高いように思っています。

私がよく思うのは、婚活事業等で、例えば女性と男性で金額が違ったりとか、金額が違うのは男性の方の人数が多かったりとか、そういうことも背景にあると思うんですけども、例えば男性は地域の人限定で、女性はどこ地域からでもいいですよという婚活イベントがあるんですけども、それって女性が仕事をやめること前提なの、というところで、女性に優しくしようとするあまり、逆に女性に差別的なイベントになっているということが結構あるなというので、そういうことに関してかなり若い人も敏感になってきているので、そういうところを注意していただきたいというか、関心を持っていただきたいなと思うところです。

少し先に言ったんですけども、LGBTQに関しても、都会ではパートナーシップとか、かなり進んでいるところもありますけれども、地方はまだまだというか、全くもって多分、それに関しては活動がないのではないかなと思うんですけども、都会が先というのがどうしてもあるかと思うんですけども、地方こそそういうことに関して進んだ認識とか制度を

作ること、若者が地方のほうが生きやすいとか、本当に一人一人が生きやすい社会になるんじゃないかなということで、そういった点でも、都会に遅れをとらず、むしろ進んでいるような地域になったらいいなと思っている次第であります。

長くなりましたが以上です。

#### 【佐々木保健福祉環境部長】

保健福祉環境部でございます。私からは2点お話をさせていただきます。

コロナの関係で、何人発生したらイベントを中止するかといった基準ということですが、なかなか難しいものがあるかなと考えております。ウイルスは目に見えないわけでありまして、また症状が出ていなくても感染している例もありますので、症状があつて、検査をした結果陽性だとわかる方というのが、全体の中でどのくらいいるかということも含めて、基準というのが、すぐにここで想定できるものというのは出てこないんですけれども、御意見としてお伺いしまして、これは久慈だけではなくて、県全体或いは国、全国的に考えていくことかなと考えております。

また婚活事業につきましてお話があつたんですけれども、当部の関係で資料3、Iの3-2(2)、おでかけi-サポという、若い独身の方の出会いを応援する事業もやっているんですが、婚活の取組というのもあつて、先ほど男性女性がイベント等で集まる場合、条件に差をつけるのはどうかというお話だったと思うんですけれども、今度市町村とか管内の結婚支援団体と、来月、意見交換する機会を考えておりますので、そこでお伝えしまして、考えていきたいなと思っております。

#### 【高橋局長】

コロナの関係で、イベントの開催基準が国から出ていますけど、今は屋外だと5000人、屋内だと1000人とか500人以内で会場のキャパの半分以下、みたいな基準があるんですけれども、感染がどのくらいだったらどう、というようなものではない状況です。

感染については、国の方で、感染未確認地域、感染があまり拡大していない地域、少し出ている地域、今拡大している地域、爆発的に拡大している地域みたいな区分けがあつて、岩手県はまだ未確認地域に近いところにいるわけですが、そういった区分けがあるんですけれども、それとこのイベント開催の関係がリンクしているかという、リンクしていないという部分があります。そういった基準が設けられているけれども、判断は地域でやってくれというような形になっている。県の方でこれはやる、これはやらないみたいなことではなくて、どちらかという、皆さんがリスクを感じてやめているというのが現状なのかなと感じているところでした。ですけれども、こういう意見があるということを共有しながら、何か対応できればと思っております。



それから、LGBTQとかマイノリティの関係は、今回お示ししたのは県北広域振興局の地域振興プランなんですけども、これの前提となる長期ビジョンというのがあります。県全体のものがありますが、そちらの方には参画という項目がございまして、その中ではマイノリティのことがあって、県全体としては、そういったこともしっかりと対応しながらやりましょう、参画していただきましょうといったようなことで進めております。県全体の話ですので、当然、今回お示した地域振興プランには記述はございませんけれども、県全体の話ですので、県北広域振興局としても取り組んでいくということで御理解いただければと思います。

時間も押してきておりますが、次に、古舘英彦委員、お願いいたします。

#### 【古舘（英）委員】

古舘といたします。よろしく申し上げます。

ユネスコ協会ということで来ているのですが、元中学校教員ですので、今日は教育事務所の方は誰もいないので教育というのはあれですけれども、芸術・文化スポーツが知事部局に入ったという関係もあるのかもしれませんが、そういった意味で呼ばれたのかなと思います。

ユネスコについては昨年、一戸町としては初、県内では22番目ということで設立しました。そこにSDGsもあるんですけれども、そういったことが主な活動ではあるんですけれども、一戸の場合には、御所野の世界遺産登録をメインとしてやっていくと。これは登録だけじゃなくて、登録以後の保全も一緒にやっていくという立場で設立したものでございます。

御所野のことについて言えば、以前に比べれば、二戸センターさんとか、県としていろいろ支援していただけるのはありがたいなと思っております。以前は本庁ばかりでこちらはあまり動いてなかったというところがあったんですが、そういう意味では、連携してやっていただけているのでいいのかなと思っております。

ここにも書いてありましたが、やはり北東北3県、北海道はちょっと遠いんですけれども、この3県の交流をもっと考えてもらいたいなど。県の事業として、3県の子供たち、小中高校生の研究発表会みたいなものを一戸でやったんですよ、5年くらい前なんですけれども。毎年じゃなくてもいいので、子供たちが縄文遺跡を通して交流していく、そういったことがすごく大事ななと思っております。今、人が集まるのは難しいんですけれども、相手次第で何かそういった機会があればいいなというのが、一つ私が思っているところです。

世界遺産登録は青森が主ですので、どうしても青森主導なので、岩手県はなかなか積極的には、世界遺産登録の経験があるにも関わらず、我々から見ていると、任せっきりというわけではないけれども、もっと意見を言っているんじゃないかということがいっぱいあったんですね。今はそういう段階を過ぎたのかもしれませんが、もっともっと意見を出していただいて、青森でやっていることが全ていいとは思っていないので、岩手県としての方向

性をきちんと出して、やっていけばいいなと思っています。東京方面から来ると、二戸、一戸のところはやっぱり、玄関口になるのだろと思うんですね、南側の。高速道路も新幹線もありますから、そういうルートを考えるときには、大事ではないかなと。そういう部分も考えておられるとは思いますが、観光やら、一緒にあるようなことと絡めて、今後とも考えてもらえればいいのかと思います。

あと、御所野のことではないけれども、先ほども人材育成の話がありました。私も、やっぱり子供たちには、いっぱい勉強してもらって、高校大学に行ってまた戻って来てもらいたいみたいなことを子供たちに教えていたんですけども、今の子供たちは、昔と違って地元に残りたいという子供たちが多いですよね。ところがなかなか受け皿が整っていない。二戸管内の高校を見ても、一戸高校だけは地元への就職率がすごく高いんですけども、他の高校は1人か2人で、みんな地区外や県外に出て行っていますね。インターンシップとかいろいろなことをやっても、もっと何かいい手があるんじゃないか。確かに、会社とか働く場所が合わないというのものもあるのかもしれませんが、その辺も教育関係者も入れて、先ほどキャリアの話もありましたけれども、もっと進めていく必要があるんじゃないかなと思っています。

教育の立場だと、やっぱり住んでよかった、もう一回戻りたい、そういう郷土愛のある子どもたちを育てることで今来ているわけですね、ほとんどの市町村が。我々縄文でも、今は御所野縄文学という、必ず一戸の子どもは縄文について毎年最低3時間は勉強するという、そういう取組を3~4年くらい前に作ったんです。それを今やっているんです。そういう、どういう子供たちを育てるか、今後のためにどうやるかという、その辺が、産業と別ではなくて教育と一体して進めるような、そういう形をできればいいかなと思っています。社教さんやらも、こういった時には関わって話をしていくというのにも必要じゃないかなと思います。

ちょっと的外れだったかもしれませんが、よろしくお願いします。ありがとうございました。

#### 【酒井産業振興室長】

御意見ありがとうございました。

私の方からはキャリア教育の関係ということで、仰るとおり、地元の小中学生、高校生を対象としたインターンシップ等、様々なキャリア教育をさせていただいております。

実施に当たりましては、生徒さんが在籍されている小中学校、高校の御理解をいただきながら実施しておりますし、実施に当たって、年度が明けてすぐ学校のスケジュールが決まってしまうので、1~2月くらいまでの時期に、直接学校と意見交換をさせていただいて、どこの学校でどういう形で、インターンシップや見学会を開催して欲しいのか、生徒が行くのか逆に来てもらうのかといった部分を含めて、学校の意見を伺いながら、事業計画を立て

させていただいているところです。

また、文化の部分でも、地元愛、地元への愛着というものも大切な取組と思いますので、御協力賜りたいと思います。

#### 【瀧澤二戸地域振興センター所長】

御所野遺跡の関係ですけれども、地域と連携して進めてほしいということですが、令和2年度は、隣接する八戸や鹿角との連携とか、御所野愛護少年団等と八戸・鹿角等との交流の推進ということで、意見交換などを一応予定していたということですが、コロナ禍で難しい部分もありますので、今後どういうふうに進めていくか見直しをしているところでございます。観光、その他いろいろな産業と関わりを持ちながら、いろんな団体と連携しながら、機運を盛り上げていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 【高橋局長】

それでは次に、古館拓委員、お願いいたします。

#### 【古館（拓）委員】

軽米町の古館製麺所の古館と申します。

家族だけでやっている小さな製麺所ですが、地域の特産を生かして、首都圏の百貨店や、最近では海外のスーパーにも麺類を販売しております。

今日は商売とは関係なく、この地域プランに沿って、自分で思ったところを言ってみたいと思います。

最初に、Ⅰの3-1の一番上、県北妊産婦安心出産支援事業とありますが、これは僕の体験で、もう子どもが3歳になっているので今はだいぶ変わっているかもしれませんが、付き添いで妊婦健診とかで二戸病院に行くと、例えば10時半とかで予約を入れているにも関わらず、名前を呼ばれるのが12時過ぎとか、場合によっては13時を過ぎるとか、そういうことが本当に頻繁になりました。なぜこんなに少子化少子化と言っているのに、こんなに無駄な時間を過ごさなければならぬだろうと、その時非常に思いました。3年前なので今はだいぶ変わっているかもしれませんが、久慈病院でも出産が今できないのでしたっけ、二戸に集約したという話を聞きましたので、もうちょっとそういう場所を支援するなりして、あとはIT、例えばLINEを登録して呼ばれる何分前に連絡とか、そういうものでもうちょっと工夫できないのかなと思っていました。

次に、Ⅱの自然豊かで再生可能エネルギーを生かした災害に強い地域のところですが、軽米町の、8月最初のころに、岩手日報の一面に大きなメガソーラーの写真が載ったのを御覧になった方がいらっしゃると思いますが、あれがネット配信されて一番反響が大きかったの

は、こんな馬鹿なことをやったのは誰だ、みたいな話が一番多かったです。私も実際あれを見て、素晴らしい景色だなと思った人がどれだけいたのか、あれだけの場所の木を切って、ソーラーパネルを並べて、本当に私はめぐさいと思います。実際、最近雨がちょっと降ると、川の濁りとか水かさが増える量が、以前よりかなり早くなっているような気がします。大雨とか降った場合どうなのか、正直怖い思いでいますので、何でもかんでも再生可能エネルギーと言って、山の木を切ってソーラーパネルを建てるとか、山を崩して平らにして風車を建てるとかというのは、実際に支援を続けていっていいものかどうか考えるべきだと思います。

次にⅢの地域資源を生かした産業を展開するということですが、食産業で、昨年と一昨年、二戸を中心にしてカシオペアブランド推進協議会というもので、結構大きな、1千万近くの予算だと聞いていますが、皆さんの意見を集めてやったんですけれども、JTBさんに委託した事業だったと思ったんですけれども、本当にそんな予算だけの効果があったのかなと、非常に疑問に思っています。結局やったのは、ポスターを作ってホームページを作って、東京で2～3日間イベントをやっただけみたいな感じで、予算の使い方をもうちょっと考えた方がよかったのかなと思います。

当然、県北地域は県南とか県央に比べて観光資源とかインフラが乏しいので、県のほうで予算をたくさん持ってきてもらいたいというのはあるんですけれども、もうちょっと事業者寄り添った予算の配分をしていただければと思います。

最後に、国内外からの誘客促進、来年度デスティネーションキャンペーンがまた始まるということで、JRさんとか、JALさんなんか巻き込んでやると聞きましたが、県北地域は、例えばJALと言っても、花巻空港だと非常に遠くなってしまうので、今度三陸道が全線開通しますと、久慈地域は三沢空港の方が非常にアクセスしやすくなると思うので、是非やる場合には、花巻空港だけではなく三沢空港の活用も考えていただければと思います。当然コロナの影響を考えなければならぬんですけれども、何か今の感じではこれ以上コロナコロナと言っている、停滞しているとどうにもならないんじゃないかなと思って、withコロナで、コロナがあるものと思ってお互いに気をつけて、観光キャンペーンも進めていけばいいのではと思います。以上です。

#### 【佐々木保健福祉環境部長】

保健福祉環境部でございます。一番最初にお話いただきました、県北妊産婦安心出産支援事業の関係でお話いたします。

この事業を始めた経緯といたしましては、久慈管内で分娩を取り扱っている診療所が今はございません。この管内ですと二戸と久慈で一つの周産期医療圏という形になっているんですけれども、久慈管内の方は、近くですと、二戸病院に行かないとハイリスク分娩できない

状況になっておまして、そこでの交通費が、自家用車等で行ったとしてもバスに乗ったりしても、かかるということで、これを市町村と一緒にあって、妊産婦の方に支援するということで、昨年度から始めた事業であります。久慈病院では、毎日二戸から先生に来ていただいて、産婦人科はあるんですけども、ハイリスク分娩ができないということで補助事業をやっているということでもあります。

また、さらに二戸病院では取り扱えないようなハイリスクの方については、例えば盛岡、岩手医大等に行くということで、さらにそこに交通費がかかるということで、久慈・二戸管内を対象に、地域経営推進費で、昨年度からこの事業で支援させていただいているところなんです。

診療の待ち時間につきましては、なかなかコメントできないですけども、確かに出産数が少なくなっているということもあるんですけども、一方で、先ほど言ったように、久慈管内で分娩の取り扱いができる診療所が取り扱いをやめてしまったりということで、医師不足というか、医療機関不足もあるのかなというふうには感じております。

また、この地域経営推進費を昨年度から始めたことによりまして、今年度からは、全県対象にハイリスクの妊産婦の方を対象にした事業を県全体でも始めております。この地域経営推進費がモデル的になって全県に広めたということで、一定の効果はあるのかなと思っておりますし、この地域経営推進費は久慈・二戸管内でしか今はやっていないので、そういった意味では、この事業をうまく活用していただきながら、安心な出産支援ということで、つなげていくことができればなと考えております。

#### 【細越企画推進課長】

再生可能エネルギーについての御意見で、軽米町に大規模なソーラーパネルを設置して新聞記事になって、それが環境破壊に繋がるのではないかというような御意見だったと思うんですけども、企画推進課の方からは、ここで意見みたいなことは言いづらいものですけども、なぜかという、まず町としてやられている施策の結果でできたものだというのが、一点あると思います。もう一つは、もちろん何かを作るときは、いろんな開発規制法というのがあるはずでして、そういった開発規制法をクリアした上でできているというのがまず一つあると思いますし、できたこと、作ることに、いろんな御意見があるというのも、世の中の様々な施設についていろんな御意見があるというのも承知していますけれども、一応、再生可能エネルギーを推進する以上、開発規制法といった最低限をクリアするのはもちろんなんですけれども、やっぱり地元住民の方がどう思っているかというのも、しっかりこれから、管内の市町村と色々な再エネを生み出していくために、どこの市町村でこういうことをやりたいというふうな計画が、多分この後どんどん出てくると思いますので、そのあたりは県、振興局企画担当としても、住民合意のあたり、理解を得ているかというあたり

も十分確認した上で、取組を推進していきたいというふうに考えております。

#### 【松本副局長】

カシオペアブランド推進事業について御意見をいただきました。ありがとうございました。

過去2年間、広域枠ということで、二戸市、一戸町、九戸村、軽米町の4市町村に県が補助をして事業を進めてきた経緯があります。2年間、古舘委員からお話があった通り、いろいろなキャンペーンをやってきたわけですが、その成果を踏まえて、今年度どうするかというのを現在検討しているところでございまして、今までの皆さんの御意見を踏まえながら、計画について検討していくということで、今後の実施については、今のところは未定という形になります。

#### 【酒井産業振興室長】

私からは、DCの関係でお話させていただきたいと思います。

来年度、4月から9月にかけて、岩手県だけではなくて東北6県を対象とした東北デスティネーションキャンペーンが展開されることになっておりまして、コロナの影響も考えながら、商談会ですとか、旅行会社さんを招聘した形の招聘ツアーみたいなものも既に企画されているところでございます。

御指摘がありました、隣県空港との連携ですが、今回は岩手県単独ではなくて、東北というエリアで展開される事業でございますので、エアラインだけではなくバスの事業者、また本県であればIGRとか三陸鉄道といったようなローカル鉄道会社とも連携しながら、JRさんが中心になって、デスティネーションキャンペーンとして、with コロナの中で、観光の面で経済を回す取組の準備を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 【高橋局長】

それでは、大変お待たせいたしました。谷地委員からお願いいたします。

#### 【谷地委員】

久慈市山形町で谷地林業という会社を経営しています、谷地です。

うちの会社は林業とついでに建設業をやっていますが、あとは林業の中でも素材生産、木炭やチップということでやっておりました。

今回このプランを見せてもらいましたが、うちの会社にもよく重なるなと思うことがありました。

この地域はどうしても田舎で、まず当時は人が働く場所を開発することで、働く場所が必

要だなということで、どんどんいろんな事業を展開してやってきたと。この時期になると、こういった成長が止まって衰退に入ってくる、人が足りない状況になっているということがよく分かります。どうにかしていかなければならないなというところで、今私どもの会社でやっているのは、よく会社のことが見えるものになっています。これは中も外もということで、「見える化」というのをよくやるようにしています。

林業全体になると、どうしてもイメージとしては危険な仕事、事故が多かったり死亡事故がけっこうあったり、今日の新聞にも載っていましたが、そういう事故がある、危ない。これは親のイメージもあるし、子どもたちも、地域のイメージもあると。じゃあどうすればいいかということで、どんなことをして取り組んでいるかというのをよく見えるようにして、SNSで発信したり、いろんなところに出かけて説明をしたり、またはこういった新しい機械ができて安全に仕事ができるようになっていきますよ、というようなことを、いろいろな場所に行って、発信していくようにしています。

そうすると、地域の産業というところを考えると、林業、産業というものがイメージが変わってきて、今度は子供たちが就職してくる、選ぶというところになってきました。ここ3～4年ぐらい、毎年1人ずつ、林業の部門に入ってくるというようなことが続いています。自分たちが何をやるかということの一つ決めて、どういったところにターゲットを絞って子どもたちに説明していくかということを中心にきちんとやらないと、多分人づくりというか、どこで働くかといったことができないのではないかと思います。もっと自分たちの業界全体の見直し、何が悪いのか、イメージが悪いのであれば変えていく努力をしなければならないんじゃないか、というようなことを、もっとやらなければならないのではないかと思います。私たちが入っている木の仕事協議会という、久慈地域の林業・木材関係を中心にしたところで働いているところです。これは一つの団体、会社としてではなくて、地域のいろんな木材に関わる人達の団体の取組をしているということです。

あとは、高齢者の活用も含めて考えると、いろんな知識とか技術を持っているわけですね。ただ、体力がついてこなかったりというところで衰えてきていると。知識やいろいろな持っているものを若い体力のある人にくっつけていくような仕事作りも、今やっているところです。いろんな部分で人が足りないわけですが、探せば結構出てくるのかなと思っています。あとは、一つは、海外から人を引っ張ってくるとってはなんですけれども、労働力として見るか、彼らを一緒に生活している仲間と見るかだけでも大きな違いがあるわけです。そういう部分でどんどん進めていくしかないかなと。業界全体を挙げて、今そんなことをやっているというところでございます。

あとは、木材協会ということで話をさせてもらおうと、県北地域の核の業種である一次産業というところが、この地域の大きな核になっていかなければならないし、この部分を使って、他にないもので発信をしていくという、一つのシンボルを作っていかなければならないので

はないかと思っているわけです。

うちの近くに平庭があります。いつもあそこを見ると、シラカバが大きくなって、危険な状況です。あそこは県立公園になっていまして、環境の方の部分で規制がかかっているの、なかなか手を出しづらいという状況なんですね。環境の人たちから見ると、手をかけないのが正しいことだと思っているかもしれませんが、でも、私は林業として見て、あれは危ない木になってきて、勝手に倒れてきて事故を起こす。誰が責任を取るんだというふうなところがよくあります。やはり、積極的に山づくりをするのであれば、どんどん人の手が入って、ある状況に作って整えていくというのが環境づくりだと思っています。ぜひとも、そんな計画も含めて、皆さんでいろんなところで知恵を出し合っていたいただきたい。縦割りできれないではなく、柔軟に、横断的に問題を解決していく地域として、このプランの中に盛り込んでいただければありがたいなと思っている次第です。

#### 【佐々木林務部長】

林務部の佐々木です。貴重な御意見ありがとうございました。

この地域は、担い手を確保するという意味ではすごく積極的に取り組んでいただいている地域です。先ほどお話にありました、久慈地方「木の仕事」協議会、こちらには、地域経営推進費も活用して、いろいろと若い人に林業体験等をやっているんですが、地域の林業に関係する方たちが一丸となって、若い人たちを採用していくという雰囲気が強くて、いわて林業アカデミーが立ち上がって3～4年目になるのですが、この地域は6名以上アカデミーの修了生を引き受けてくれて、やはりそういうふうな効果が出てきているのかなと思っています。

今、林業関係はすごく景気も良くなっておりますし、資源も充実しておりますので、十分この地域で、一次産業として地域を引っ張っていく産業になっていけるのではないかなと思います。いろんな補助事業を活用したり、資源そのものが相当な価値を生み出していきますので、そういう仕組みづくりをしていけば、どんどん良い業界になっていくのではないかなと思います。引き続き、「木の仕事」協議会の活動には期待したいと思います。

平庭の開発については、林業的な立場で言いますと、仰ったように、シラカバの木は比較的寿命が短くて、50年くらいすると倒れ易くなってくるといいます。適度に手を入れて健全化しながら、観光資源としても安全性を重視し、環境サイドの方では切るなという考えかもしれませんが、やはり安全な観光地としてやっていくためには、そういう視点での山づくりをやっていかなければならないかなと思っています。

#### 【高橋局長】

人材確保の部分で取り組まれていることについては、林業だけではなくていろんな部分で、



今日も皆さんから人材確保の話が出て、参考になるお話だったのかなと思いますので、またいろいろとお話を聞かせていただきながら、皆で共有できる部分を共有しながら進めていければいいと思いますし、先ほどの平庭の関係も含めて、セクションだけではなく、我々せつかく広域振興局という形でいろんなセクションを持ってやっていますので、その中でもしっかり情報共有して、連携してできることをやっていきたいと思います。ありがとうございました。

時間が過ぎてしまいまして、大変恐縮です。一通り皆さんから御意見を頂戴しました。大変ありがとうございます。

ぜひこれは言っておきたいみたいな話があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

すみません、私の進行で時間を超過してしまいましたけれども、ここで意見交換を終了させていただきたいと思います。

いろいろ貴重な御意見を頂戴したと考えております。頂いた御意見につきましては、今後の施策推進に参考にさせていただきたいと思います。また、今年度もう一回開催するということを確認しておきます。引き続き御指導御協力をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

#### 4 その他

【佐々木副局長】

それでは次第4、その他でございますが、委員の皆様から何かご発言ございますか。

【谷地委員】

先ほど進行の件がありましたけれども、改めて時間の調整とか、もう少し長くやってもいいのではないかなと思います。ぜひとも活発に、お互いに交流できる場所づくりもしていただければと思います。

【佐々木副局長】

ありがとうございます。委員の皆様の意見交換の時間等についても、今後検討してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 5 閉会

【佐々木副局長】

それでは、以上をもちまして、本日の地域運営委員会議を終了します。

委員の皆様におかれましては、長時間にわたり御協力いただきましてありがとうございます。

した。なお、本日御出席いただきました皆様には、後日御礼の品をお送りさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。